

私の手は曲っている。

しかし擱まねばならない。

歯が抜けている。だが噛まねばならない。

眼球を失つても 見ねばならず、

足を失つても歩かねばならない。

志樹逸馬「生きるということ」より

ハンセン病文学の新生面

国立ハンセン病資料館

2023年2月4日(土)～5月7日(日)

企画展



『いのちの芽』の詩人たち

企画展示室 入場・観覧無料

●開館時間 午前9時30分～午後4時30分〔入館は午後4時まで〕
●休館日 月曜および「国民の祝日」の翌日〔月曜が祝日の場合は開館〕
ご来館の際は公式サイト（下記QRコード）で最新情報をご確認ください。



刊行から70年 幻の詩集がよみがえる!

1953年、らい予防法闘争のさなか刊行された大江満雄編『いのちの芽』(三一書房)は、全国8つのハンセン病療養所から73人が参加する、初めての合同詩集でした。

戦後もなお続いた隔離政策の不条理に直面しながらも、それを「宿命」として受け入れるのではなく、外部社会に向けて希望・連帯・再生を希求する新たな文学の姿を、本展では「ハンセン病文学の新生面」としてとらえ直すことを目指します。

作品原稿はほぼすべて失われていますが、高知県立文学館所蔵の大江満雄宛書簡のなかから、本詩集参加者による自筆資料などをこのたび初公開します。

イベント情報

会場：国立ハンセン病資料館 映像ホール

2023年1月4日(水)正午12:00、当館HPよりすべてのイベントの事前申込を開始します。
定員70名になり次第、申込を締め切ります。

●コンサート

青い鳥のハモニカ

2023年 2月11日(土、祝) 14:00～15:30(13:30開場)

出演

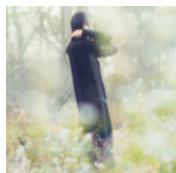
阿部海太郎(あべうみたろう) 作曲家
トウヤマタケオ 作曲家、鍵盤奏者
当真伊都子(とうまいとこ) ピアニスト、歌手、作曲家



阿部海太郎



トウヤマタケオ



当真伊都子

瀬戸内海にあるハンセン病療養所・長島愛生園との縁を機に、盲人の仲間とハモニカバンド「青い鳥樂団」を結成した近藤宏一氏の音楽に触れた阿部海太郎氏は、その足跡を追う活動「青い鳥のハモニカ」を2019年より開始。近藤氏は、小島浩二名義で『いのちの芽』にも参加しており、文学と音楽の双方に大きな足跡を残しました。今回のコンサートでは、阿部氏とトウヤマタケオ氏による演奏と当真伊都子氏の朗読とオーケストラを通して、ハンセン病療養所から生み出された詩の言葉と、音楽の素晴らしさをお届けします。【ライブ配信あり(事前申込不要)】

●講演会

ハンセン病者と文学者はいかにハンセン病問題と関わったのか

2023年 2月25日(土) 14:00～15:30(13:30開場)



西村峰龍

講師：西村峰龍(にしむらみねたつ)
静岡文化芸術大学非常勤講師。専攻は日本近代文学、日本文化。博士論文「当事者が語る—ハンセン病者と文学者は如何にハンセン病問題と関わったのか」(名古屋大学、2016年)などがある。今回の講演会では、ハンセン病療養所の入所者と、外部の文学者との関係、そのなかで生み出された作品の意味などについて、文学研究の視点から語っていただきます。

●講演会

千年先まで言葉を届けるために

2023年 3月12日(日) 14:00～15:00(13:30開場)



姜信子

講師：姜信子(きょうのぶこ)
作家。『いのちの芽』にも参加している鶴雄二氏(栗生樂泉園)の詩文集『死ぬふりだけでやめだけや 鶴雄二詩文集』(みすず書房、2014年)編著。その他ハンセン病関係の著書に、「今日、私は出発する—ハンセン病と結び合う旅・異郷の生」(解放出版社、2011年)がある。
今回の講演会では、鶴雄二氏との交流の思い出を通して、ハンセン病詩人の作品の魅力や現代的意義などについて語っていただきます。

【ライブ配信あり(事前申込不要)】

上記の内容は予告なく変更する場合があります。詳しくは当館HPをご覧ください。

交通のご案内

- 西武池袋線「清瀬駅」南口発 西武バス 久米川駅北口行き [乗車時間 約10分] 「ハンセン病資料館」下車すぐ
- 西武新宿線「久米川駅」北口発 西武バス 清瀬駅南口行き [乗車時間 約20分] 「ハンセン病資料館」下車すぐ
- JR武蔵野線「新秋津駅」または西武池袋線「秋津駅」より徒歩約20分

- 駐車場あり
台数が限られています。
なるべく公共交通機関をご利用ください



やつと私もココロはカラダを通して言葉を産むのだということを感じるようになりました。
老いてカラダが意のままにならなくなってきて、
詩の本来である心身一如を、今回の展示を通して多くの人に実感してほしいと思います。

●講演会

戦後ハンセン病文学を読みなおす

2023年 3月18日(土) 14:00～15:30(13:30開場)



荒川洋治

講師：荒川洋治(あらかわひょうじ)

福井県生まれ。現代詩作家。詩集に『水駅』(第26回H.C賞)、「渡世」(第28回高見順賞)、「空中の茱萸」(第51回読売文学賞)、「心理」(第13回萩原朔太郎賞)、「北山十八間戸」(第8回鈴川信夫賞)、評論・エッセイ集に『忘れられる過去』(第20回講談社エッセイ賞)、「文芸時評という感想」(第5回小林秀雄賞)、「過去をもつ人」(第70回毎日出版文化賞書評賞)、文庫に『詩とことば』(岩波現代文庫)など。2019年、恩賜賞・日本芸術院賞を受賞。

日本芸術院会員。東村山市在住。2020年10月24日文学講演会「東村山ゆかりの名作」(東村山市中央公民館)で北條民雄を論じるなど、ハンセン病文学についても造詣が深い。今回の講演会では、「北條文学・以後」ともいえる戦後のハンセン病文学、特に詩作品について、現代詩作家の視点から語っていただきます。

●朗読会

詩集『いのちの芽』を読み継ぐ

2023年 4月1日(土) 14:00～15:00(13:30開場)



小泉今日子

朗読：小泉今日子(こいづみきょうこ)

歌手、俳優。2022年にデビュー40周年を迎えた。2005年～2014年までの約10年あまり「読売新聞」読書欄の書評委員も務め、最近ではデジタル配信番組「ホントのコイズミさん」で、本の魅力についても発信している。

今回の朗読会では、ハンセン病療養所で生まれた詩作品に、声を通して生命を吹き込んでいただきます。

【ライブ配信あり(事前申込不要)】

●ギャラリートーク

企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」をめぐって

■オンライン 2023年 3月3日(金) 19:00～20:30

■対面 [会場：国立ハンセン病資料館 企画展示室]

2023年 2月17日(金)、3月25日(土)、4月29日(土、祝)

5月3日(水、祝)、5月7日(日) すべて14:00～14:30



木村哲也

担当学芸員：木村哲也(きむらたでつや)

詩作品や資料にふれながら、作者の人となりや作品が生み出された時代背景などを解説します。

オンラインと対面でそれぞれ実施します。

【オンラインのギャラリートークは、事前申込が必要です。】

(対面のギャラリートークは事前申込不要)

谷川俊太郎

